

△斗う社会学の学友は、自らに筑波斗争との主体的対決を迫る中から、更なる斗いの前進をかちとる。

照りかえる酷暑の太陽の下、スト決行中の立看は柄ち、みじめなその姿は我々の斗いの「衰微」を嘲笑しているかのようである。そして常にデモ隊の先頭に位置していた社会学の旗は、激しい斗争の中で破れ、今、本館屋上で雨傘とした村内を見下しながら、再び己れを担うべき主體の到来をさびし気に期待している。筑波移転推進への怒りをバネにした我々のバリケード・ストの斗いは、「夏休み」を境として「衰退」の一途をすべり落ちて行くのだろうか。

降りしきる豪雨の中、自らの「存在」をその奔走において自己認識しつゝ、一切の「既成秩序」からの「説教」をはつきりと拒絶し、バリケードの一一一

一に我々の斗う意志を凝縮させていたあの6月25日は、そして本館封鎖突入の29日は、再びへこ大暮の地には甦らかいのである。しかし、もしされが「現實」であつたとするならば、我々の心の中で、我々の行動の原点として存在していた筑波は、向の外的打撃もなしに突然自己崩壊を始め、その粉々になつた小日は、あたかも我々の行動を、そして存在することすらも虚幻である。たかのように幻惑し、その醜悪な

「かたまり」は心の底に沈み込んだ重い鉛塊となる。しかししながら、果して我々の心の中の「筑波」は、ほんとうに「自然消滅」の「地獄」へと墮落していくのであろう。たゞ、我々は断じてその墮落を容認することとはできないのだ。我々はそつと自己欺瞞を、自己の意識の中からたき出し、それが甘い「魅惑」的で求一ズきとり得る工作を謀っているある種の「青春」を逃すよう、傍観的で仮面をつけた「賢い」正義のオバケ。自家生産しようとするどろどろした胎動に射して、その息吹きの根を止めなければならぬ。自らの意志と行動を却殺しようとする一切の妥協・合理化の「繁殖細胞」を壊滅させるべき飽くなき対決こそが、現在、次の25日のバリケードを力築した我々一人一人に課せられてゐるのだ。

き我ら、創だらる主體形成を因襲して実き進もうではないか! 今次筑波斗争を主体的に中間総括する中から、自己の「筑波」を再生せしめ、現実の農庄リ筑波移転への實存的対決点を創造し、不死鳥のごときバトスも、で、社会学のみ下、筑波移転因止に向けて更に強固な隊列を組み進もうではないか!

各自の主体的与中間総括の原稿を募ろ!

社会学クラブ 斗争季内

「敵報」編集局 8月10日〆切

連絡先 船橋市高根台町ニ-13

高根公園98-15

相川道雄

ヘミ煎 無潤音レ

△夏休みにおけるピケ・パトロールのスケジュールと参加の呼びかけ

7月23日以降実質的な夏休み斗争は各クラスともこの長期間は夏休み斗争を更に「夏休み」以後にありる強固なストを継続せんかために一日としてゆるぎない斗争というものを保障しなければならぬだろう。夏休み以前の斗争において常に文学部の先頭に立ち強固なる連帯をもつて斗つてきた社会学クラスは、更にこの間ににおける斗争の主体的役割を担わねばならない。しかしながら、うこの間に、より多く社会学クラスの現状を説明されば、夏休み以前の精密なる計画にもかかわらず、県省組の爆発、三年生の調査実習への参加、さらに在京組においてもアルバイトでの関係にやり通り込み・ピケ・パトロールに参集する人數があまり多いことはいえない。連日の通り込み三・五名、ピケ四・六名というものが現状である。そこでピケ・パトロールの夏休みのスケジュールを再度おさらいにすると共に対する結果、特に3日、10日におりるパトロールに対し、在京組の諸氏が積極的に参加されることを望み更に強固な連帯とバリケードの前卫に立ち上がるうではないか。そしてそのうち夏休み斗争の貢献こそ9月以降の斗争を保障するのだ!

曜日	ピケ毎時
月	15:30~17:00
火	14:30~15:30
水	12:30~14:00
木	11:00~12:30
金	10:00~11:00
土	9:00~10:00
日	なし

パトロールは毎土曜日夜に行われる